

事業番号	050
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	姉妹都市・友好都市交流事業					担当部	地域活性化営業部			
	会計区分	一般会計		事業類型	一般	担当課	シティプロモーション課				
	事業期間	平成12年度以前		～	平成30年度以降		担当係	観光交流係			
	総合計画 分野別計画	主目的	5 産業・交流		18 シティプロモーション		5 都市間交流の推進および国際感覚を醸成します				
		副目的									
	予算区分	款	7	項	1	目	3	大	5	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金交付要綱									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	姉妹都市・友好都市との国際交流に関心を持つ市民を対象に、姉妹都市・友好都市との交流を促進し、友好関係を図る。特に将来につながるよう若い世代の交流を促す。									
	内容 (手段)	<p>・ワイアンドット市中学生との交流は23年度から隔年で派遣・受入れを行うものとした。</p> <p>◆25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生ワイアンドット市派遣事業として中学生12名、引率者2名を派遣。 ・安養市へは、小学5、6年生7名、引率教諭2名の派遣と受入れ事業をそれぞれ実施。 ・『小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金』交付の実績は1件であった。 ・水野義信外10名の安養訪問に際して100千円を交付した。 ・周年記念事業としてワイアンドット市へ姉妹都市提携50周年を記念し、親善使節団(市長・議長・公募市民12名・随員職員2名)を派遣。 ・安養市へは、安養市制40周年記念式典等への招聘事業に市長を団長とする代表団(市長、議長、職員2名)と、芸術団(10名)を安養市へ派遣。 <p>※職員は派遣事業に関する連絡手配、受け入れ時の行程作成から添乗等一切の業務を行った。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 国際交流事業委託金 決算額14,024千円、その他230千円 ※下記、その他財源の内訳⇒国際交流事業参加者負担料 4,890千円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 国際交流事業委託料 3,900千円、その他 1,400千円</p>									
	受益者負担	有 事業参加負担料(事業費の1/3)									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	5,082	2,786	14,254	5,300	
		正職員	従事者数	人	2.00	2.00	2.00	2.00
			人件費	千円	10,520	10,520	10,520	10,520
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	15,602	13,306	24,774	15,820		
対前年比	%			85.2	186.1	63.8		
財源	一般財源	千円	11,868	13,116	19,884	15,579		
	国・県支出金	千円	2,529	0	0	0		
	その他財源	千円	1,205	190	4,890	241		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	ワイアンドット市派遣事業	人	目標	13	—	12
実績				13	—	12	
ワイアンドット市受入事業		人	目標	—	9	—	—
			実績	—	11	—	
安養市相互交流事業		人	目標	12	12	10	10
			実績	0(中止)	12	7	
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
事業参加者	人	目標	25	21	22	10	
		実績	13	23	19		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	事業の達成状況	姉妹都市ワイアンドット市、友好都市安養市との交流事業を実施することによって、市民レベルでの国際交流を図ることができた。		
	事業実施における課題	<p>海外の国との児童・生徒のホームステイの相互交流事業については、国際情勢・経済状況等の影響を受けやすく、また、お互いの国とのやり取りは慎重な対応が求められることや、募集・行程作成・現地との調整など、ワイアンドット、安養市の両事業を合わせても20名以下の事業であるのに比して、事務方の負担とリスクが非常に大きい事業である。</p> <p>市内の小中学校の教員に引率をお願いしているが、事前の研修や相手国からの受け入れ、また、未成年を預かり海外へ引率することで、現地での不測の事態への対応など、時間的にも、心身的にも負担が大きいことから、学校サイドから今後の事業協力が困難であるという意見をもらっている。</p>		
	事業を縮小・廃止したときの影響	姉妹都市・友好都市との交流の促進が停滞する。		
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	<p>子どもたちの国際的視野を広げるような事業について、県や国際交流関連機関に協力を仰ぎ、リスクを低減し、効果的な手法で行えるよう検討する。また、新たな手法を検討したうえで、友好都市を増やしていけるよう調査・研究を行う。</p>	
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	今後、子ども達の国際感覚を育むためには、国際交流体験の機会が必要があると考えるため。		
	27年度以降の改善案	事業参加者たちが今後の国際交流事業に関わるような仕組みを検討する。また、事業実施に係るリスクを減らし、効果的な事業実施方法を検討する。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。事業実施に係るリスク(現地での不測の事態等)が顕在化しないように、対策に万全を期すこと。